

## 八峰白神ジオパーク 再認定現地審査報告書(公開版)

日程：2016年11月12-14日

審査員：平田大二（JGC 委員）

齊藤清一（JGN 事務局長）

中村真介（JGN/白山手取川 GP）

**主な対応者（所属）：**

加藤和夫（八峰町長）・辻正英（八峰白神ジオパーク推進協議会会長／白神ネイチャー協会会長）・地主武玄（同協議会副会長／八峰町白神ガイドの会理事）・太田治彦（同協議会副会長／八峰町観光協会会長）・佐藤博孝（同協議会運営委員／あきた白神体験センター所長）・工藤金悦（同協議会運営委員／八峰町生涯学習課長）・秋元裕子（同協議会運営委員／峰浜小学校教諭・教育専門監）・小玉育宏（同協議会監事／白神八峰商工会事務長）・工藤英美（同協議会顧問兼研究専門員）・林信太郎（秋田大学教育文化学部）・藤本幸雄（秋田地学教育学会）・板谷大樹（八峰町観光協会事務局長）・米林伴宗（同協議会事務局長／八峰町産業振興課長）・成田拓也（八峰町産業振興課長補佐）・嶋津辰也（同協議会事務局員／八峰町産業振興課）・日沼久人（同協議会事務局員）・三輪拓磨（同協議会事務局員／八峰町地域おこし協力隊）・富山翔伍（同協議会事務局員／八峰町）

**報道機関：** 読売新聞東京本社、秋田魁新報社、北羽新報社

**主な見学地点：** 三十釜、ぶなっこランド、ごま石、濤安の乙女、ジオパーク絵画展

**主なヒアリング対象：**

八峰白神ジオパーク推進協議会、八峰町、八峰町教育委員会、白神ネイチャー協会・八峰町白神ガイドの会、八峰町観光協会・白神八峰商工会

**現地審査のまとめ**

## 1) ジオパークの名称とテーマ

八峰白神ジオパークでは、エリアの東隣にある世界自然遺産白神山地の基盤を成している岩体がエリア西部の海岸部に露出しており、それを見ることが出来る点を特徴の1つとしている。しかしながら、白神山地と海岸地形を結びつけるストーリー、サイト同士をしっかりと結びつけるストーリーは地域の中で十分に共有されておらず、WEBページや看板、パンフレットへの文章化もされていない。また、八峰白神ジオパークがどのような特徴を持った場所なのか、何が他地域との違いなのか、明快な説明が不足している。ジオパークとしての「特徴」あるいは「売り」が何なのかを整理し、科学的な裏付けを得た上で、テーマとストーリーを再構築する必要がある。

## 2) ジオサイトと保全

八峰白神ジオパークでは2012年の新規認定時に19のジオサイトが存在したが、現在は41に増加している。しかし、サイト解説がすべてのサイトには備わっておらず、また、科学的な裏付けが不十分なサイトもあり、学術的担保を得た上で、各サイトの目的や用途、保全対象を整

理し、それぞれの位置づけと名称を再考する必要がある。加えて、41のサイトの中には、八峰白神ジオパークのエリアの外側に設定されている箇所があり、早急な見直しが必要である。

### 3) 教育・研究活動

地域では、学校教育・生涯学習を通じて、ふるさとの価値を学ぶ学習が活発に取り組まれている。エリア内の全小学校では、秋田大学の教員による実験授業が継続的に行われているほか、エリア外へ向けては山や海を活かした多様な体験活動が提供されている。また、秋田県ジオパーク連絡協議会を通じて、ジオパークに関わる研究助成事業に取り組んでいる。

### 4) 管理組織・運営体制

これまで、町役場や教育委員会、観光協会や商工会など、推進協議会に参加している団体は小さな町の中で、キーパーソンのイニシアチブの下、「阿吽の呼吸」によって連携を深め、ジオパーク活動を進めてきた。地域では多くの関係者が、個人に頼っていたこれまでの体制から、持続可能な運営体制へ脱皮する必要性に気づいており、推進協議会の中でも、これまで存在はしていたが実働していなかった部会を活発化させようと、自ら改革に乗り出した点は大いに評価できる。

### 5) 地域の持続可能な発展とジオツーリズム、ガイド養成

各ジオサイトの解説看板の内容は、全体に科学的な裏付けが不足しており、また一般向けにはわかりにくいものが多い。また、ジオパーク全体を紹介する看板や、拠点施設・ジオサイトへ誘導していく看板が大きく不足している。前回の審査後にぶなっこランド内の森林科学館が拠点施設と位置づけられているが、その展示内容は内容の精査が必要である。

ガイド活動は八峰町白神ガイドの会が担っており、会での井戸端会議的な情報交換は、ガイドスキルの向上やサイトの改修などに結びついている。また、自学自習の姿勢が見られる他、客から苦情への対処など一定の自浄作用も有している。一方で、解説は専門用語に頼りすぎる面があり、ガイドスキルのさらなる向上が必要である。

八峰町では、エコツーリズム・ジオツーリズム・グリーンツーリズム・ブルーツーリズムの4つが並立しているが、相互の連携の素地はあることから、今後の相乗効果が期待できる。

### 6) 国際対応

各ジオサイトの解説看板は日英併記で制作されており、大いに評価できる。一方で、WEBページやパンフレット、ガイドによる解説の外国語対応は今後の課題である。

### 7) 防災・安全

地域では日本海中部地震の教訓を伝えるよう活動を重ねている。また、ガイドは定期的に救急救命講習を受けており、ツアー中のリスクマネジメントも一定程度意識できている。

### 8) ネットワーク活動

秋田県内のジオパーク同士で秋田県ジオパーク連絡協議会を結成し、ガイド養成や研究助成など共同事業に取り組んでいる。また、全国レベルの各会合へもコンスタントに参加している

が、その参加人数は少数であり、ネットワークへの貢献にまでは至っていない。

#### 9) 前回の審査における指摘事項への対応状況

秋田県内のジオパークとの連携や森林科学館の拠点施設化を進めており、また、教育面をはじめ、地域の価値を再認識するための活動が活発に展開されている。一方、ジオストーリーの明確化、ジオサイトへの案内看板、わかりやすい解説板、ガイドスキルの向上などについては、さらなる進展が求められる。